

---

## 参考資料編

### 復興まちづくりイメージトレーニングの資料作成例

---

## 復興イメージトレーニング プログラム

## 第1部 生活再建シナリオの検討 (所要時間：120分)

時間(目安)	内容
10:00~10:10(10分)	開催のあいさつ
10:10~10:30(20分)	復興イメージトレーニングの概要説明(学識経験者)
10:30~10:45(15分)	第1部の内容と対象地区の概要を説明(事務局)
10:45~10:50(05分)	学識経験者より、議論のポイントなどを説明
10:50~10:55(05分)	各班に分かれ、作業開始
10:55~11:10(15分)	① 進行役より、再度、作業内容を説明
11:10~11:20(10分)	② 「生活再建シナリオカード」を検討し付箋に記入
11:20~11:45(25分)	③ 各自の「生活再建シナリオカード」を発表
11:45~12:00(15分)	④ 生活再建シナリオのまとめ(付箋の整理) ⑤ 生活再建支援策を検討し付箋に記入、模造紙上で整理
	全体発表：各班から、生活再建シナリオを発表(各班：5分)
第2部・第3部(午後)へ	

## 第2部 市街地復興シナリオの検討

## 第3部 生活再建シナリオを踏まえた市街地復興シナリオの検討(所要時間：210分)

時間(目安)	内容
13:00~13:10(10分)	第2部、第3部の内容説明(事務局)
13:10~13:15(05分)	学識経験者より、議論のポイントなどを説明
13:15~13:20(05分)	第2部 各班に分かれ、作業開始
13:20~13:30(10分)	① 進行役より、再度、作業内容を説明
13:30~14:15(45分)	② 各自で「市街地復興シナリオカード」を作成 ③ 各自の「市街地復興シナリオカード」をもとに、地区の復興方針(将来ビジョン)、市街地復興の内容、市街地復興を進める際の課題を議論(適宜、被害想定図へ記入)
14:15~14:25(10分)	④ 市街地復興シナリオのまとめ
14:25~14:30(05分)	第3部 各班に分かれ、作業開始
14:30~15:35(65分)	① 進行役より、再度、作業内容を説明 ② 市街地復興シナリオに関係する生活再建シナリオを整理(第1部の検討結果を反映しながら、模造紙に付箋を用いて整理) ③ 第2部で検討した市街地復興シナリオの課題(問題点、条件)を議論(付箋に記入し模造紙上で整理) ④ 市街地復興のプロセス、必要な生活再建支援策、まちづくり制度などを検討(付箋に記入し模造紙上で整理)
15:35~16:20(45分)	全体発表：各班から発表(発表時間：5分程度)、意見交換
16:20~16:30(10分)	学識経験者より総括

## 復興イメージトレーニング 配布資料等一覧

区分	資料等
配布 資料	・ 資料 1 当日のプログラム及び配布資料一覧
	・ 資料 2 参加者一覧 ※本参考資料からは割愛
	・ 資料 3 学識経験者プロフィール ※本参考資料からは割愛
	・ 資料 4 復興事前準備の必要性と復興まちづくりイメージトレーニングの概要 ※学識経験者講演資料 本参考資料からは割愛
	・ 資料 5 復興まちづくりイメージトレーニングの進め方
	・ 資料 6 対象地区の概要
	・ 資料 7 被害想定図
	・ 資料 8 世帯属性の設定内容
	・ 資料 9 シナリオカード（生活再建及び市街地復興）
	・ 資料 10 被災者支援に関する制度の概要
	・ 参加者アンケート用紙
机上 配布	・ 生活再建シナリオ（第 1 部） 作業模造紙（A0 版）
	・ 市街地復興シナリオ（第 2 部） 作業模造紙（A0 版）
	・ 生活再建と市街地復興のバランスの検討（第 3 部） 作業模造紙（A0 版）
	・ 都市計画図
	・ 都市計画マスタープラン

# 復興まちづくりイメージ トレーニングの進め方

平成〇年〇月

1

## 第1部 生活再建シナリオの検討

2

# 第1部の内容

## 第1部 生活再建シナリオを検討する

復興プロセスにおいて、困難な状況に直面する可能性がある世帯属性を設定し、発災後の人生シナリオ（生活再建）を考える

※世帯属性は、国分寺台に居住しているような世帯を設定

### ・世帯ごとに生活再建シナリオを作成

<属性> 居住地、職歴、世帯構成、家計状況、建物被害  
敷地条件、子・親世帯の状況、居住歴

### ・シナリオを想定した理由と、シナリオが成立する条件を検討

#### グループワークの内容

- 「生活再建シナリオカード」を検討し付箋に記入（15分）
- 検討した「生活再建シナリオカード」を発表（10分）
- 生活再建シナリオのまとめ（付箋の整理）と、生活再建支援策を検討し付箋に記入、模造紙上で整理（25分）
- 各班から、生活再建シナリオを発表（5分×3班）

3

# 第1部の内容（シナリオカード）

世帯名	Aさん
生活再建シナリオ (住宅再建に至るプロセスを具体的に記述)	
理由 (そのシナリオを想定した理由を記述)	
条件 (そのシナリオが成立するための条件を記述)	

#### 例)

- ① 避難所生活の後、賃貸住宅を借りる
- ② 仮設商店街などで店を続ける
- ③ 被害を受けた建物を取り壊して、店舗兼住宅を再建する計画を立てる
- ④ 各種制度やローンを組み資金を確保する
- ⑤ 現地で店を再建する

長年商店を経営しており、まちに対する愛着があるため、現地での復興を目指す

- ・災害援護資金の活用（350万円貸付）
- ・被災者生活再建支援制度の活用（300万円支給）
- ・次女の就業支援

※資料9を参照ください

4

# 第1部の内容

世帯属性		本格復興期の状況 (シナリオカードで検討した最終的な生活再建シナリオを記載)	生活再建シナリオ (シナリオカードで検討したシナリオを記載)	考慮すべき点 (シナリオカードの理由/条件を記載)	生活再建支援策
A 世帯 【喫茶店経営】 Aさん(65歳) 妻(60歳) 長女(33歳)	A-1	※カードに記載したシナリオの中で最終形を記載(現地で店を再建など)	生活再建の流れを考える ※カードのシナリオ部分を付箋で整理	生活再建を進める上でポイントとなること・条件を考える ※カードの理由や条件部分を付箋で整理	生活再建支援策を考える
	A-2				
	A-3				
B 世帯 【会社員】 Bさん(45歳) 妻(44歳) 長男(21歳) 次男(18歳)					

**話し合いのポイント**  
個人(世帯)の視点から生活再建シナリオ(人生シナリオ)を考える

○ すでに利用可能な制度  
△ すでにあるが十分とはいえない制度、改善を要する制度  
× 現時点では存在しない制度、今後検討すべき制度  
\* 市街地復興に直接関連する課題

## 第2部 市街地復興シナリオの作成

## 第3部 生活再建シナリオを踏まえた 市街地復興シナリオの検討

# 第2部の内容

## 第2部 市街地復興シナリオを検討する

被害想定より、市街地復興シナリオ（市街地復興像）を検討  
参考に都市計画マスタープラン等を活用

### ・地区の復興方針（将来ビジョン）を検討

### ・空間要素別にシナリオを作成

土地利用、みどり・景観、主要道路、区画街路・細街路  
公園・オープンスペース、公共公益施設、戸建住宅、集合住宅、商業施設

### ・市街地復興を進める際の条件・課題を検討

#### グループワークの内容

- 各自で「市街地復興シナリオカード」を作成（10分）
- 各自の「市街地復興シナリオカード」をもとに、地区の復興方針（将来ビジョン）、市街地復興の内容、市街地復興を進める際の課題を議論・まとめ（55分）

# 第2部の内容（シナリオカード）

<p>地区の復興方針 (将来ビジョンを簡潔に)</p>	<p><b>例）多世代が快適に暮らす 魅力あふれるまち 国分寺台</b></p>
<p>市街地復興シナリオ (目標とする市街地像に至る復興プロセス(=住宅再建を含む)を具体的に記述)</p>	<p><b>土地利用</b> ・地区計画等の活用促進による過度な宅地細分化の防止</p> <p><b>みどり・景観</b> ・緑化等による良好な住環境の維持・保全</p> <p><b>主要道路</b> ・都市計画道路、大谷峰線を延焼遮断帯として整備</p> <p><b>区画街路・細街路</b> ・生活道路における、道路の拡幅や一方通行化等による歩行空間の確保</p> <p><b>公園・オープンスペース</b> ・地区北側の用地を取得し、防災公園を整備</p> <p><b>公共公益施設</b> ・国分寺台文化センター・ケアセンター、自治会館の早期復旧 ・復興まちづくりの拠点として活用</p> <p><b>戸建住宅</b> ・多様な世代が暮らせる二世帯住宅等が建築しやすくなるような方策の検討 ・空家の利活用方策の検討</p> <p><b>集合住宅</b> ・地区北側の用地を取得し、災害公営住宅を建設</p> <p><b>商業施設</b> ・国分寺台中央商店会の再生にあたり、歩道沿道にオープンスペースを設置</p>
<p>理由 (そのシナリオを想定した理由を記述)</p>	<p>・地区の人口減少、高齢化率の高さとともに、被災後のまちの賑わいや元気の低下など、顕在化する問題に対処する</p>
<p>条件 (そのシナリオが成立するための条件を記述)</p>	<p>・高齢世帯の生活再建支援方策 ・復興まちづくりの財源確保 ・空いた土地の確保</p>

## 第2部の内容（図面）

市街地復興の内容は、  
図面にマジックで直接記載  
して結構です

災害公営住宅  
を建設

延焼遮断帯  
として整備

国分寺台中央商店会  
の再生にあたり、歩道  
沿道にオープンスペ  
ースを設置



多世代が快適に暮らす  
魅力あふれるまち  
国分寺台

地区の復興方針を記載

地区計画等の活用促進  
による過度な宅地細分  
化の防止

国分寺台文化センター・  
ケアセンター、自治会館  
の早期復旧  
復興まちづくりの拠点と  
して活用

9

## 第3部の内容

### 第3部 生活再建と市街地復興のバランスの検討

第2部で作成した市街地復興シナリオを成立させることに対し、  
障害となりうる課題を議論する

ポイントは生活再建シナリオと市街地復興シナリオを両立させられるように、  
それぞれの条件や課題等を考えること

**課題解決のための制度やシナリオの再検討を行う**

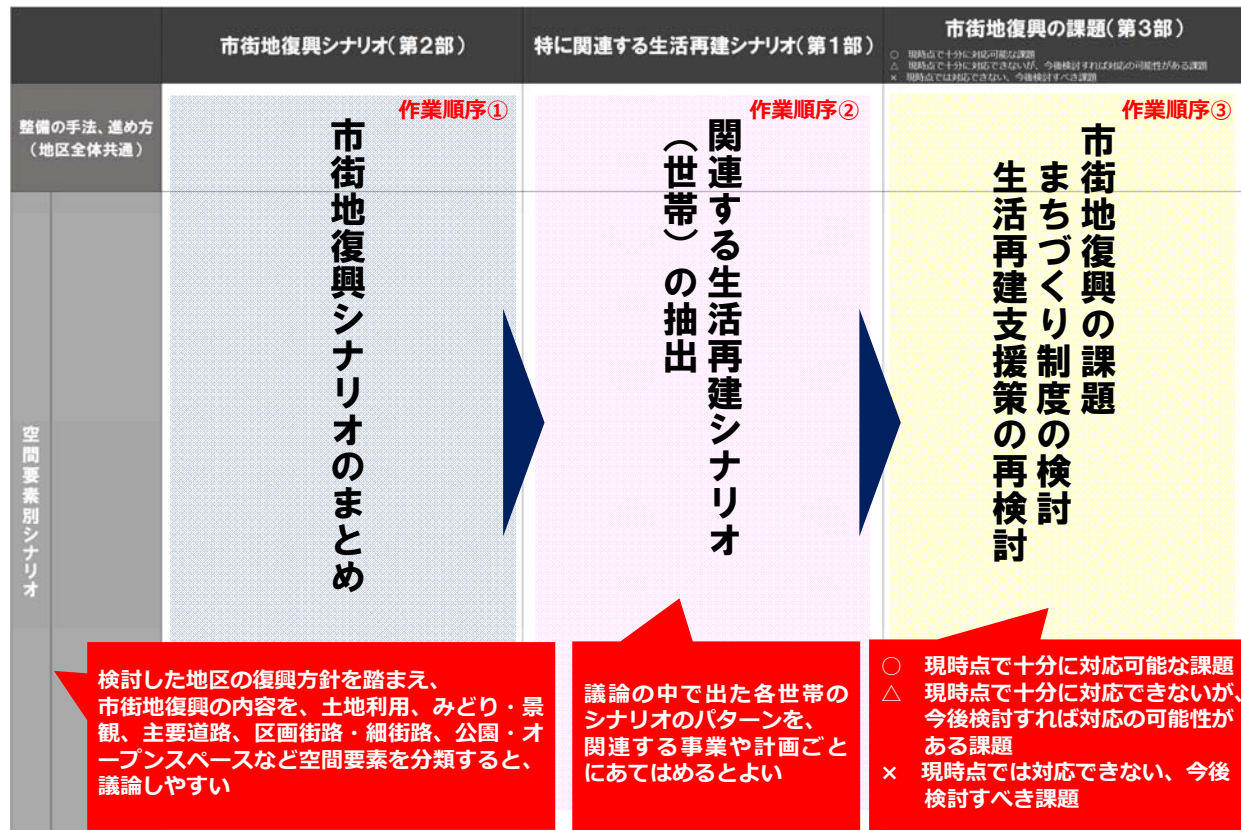
#### グループワークの内容

- 市街地復興シナリオに関係する生活再建シナリオを整理
- 第2部で検討した市街地復興シナリオの課題（問題点、条件）を議論
- 市街地復興のプロセス、必要な生活再建支援策、まちづくり制度などを検討  
また平常時から取り組んでおく対策を検討しても可
- 全体発表：各班から発表（5分×3班）＋ 意見交換

今ない制度でも可！！



# 第2・3部のまとめ



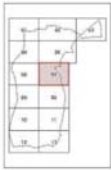
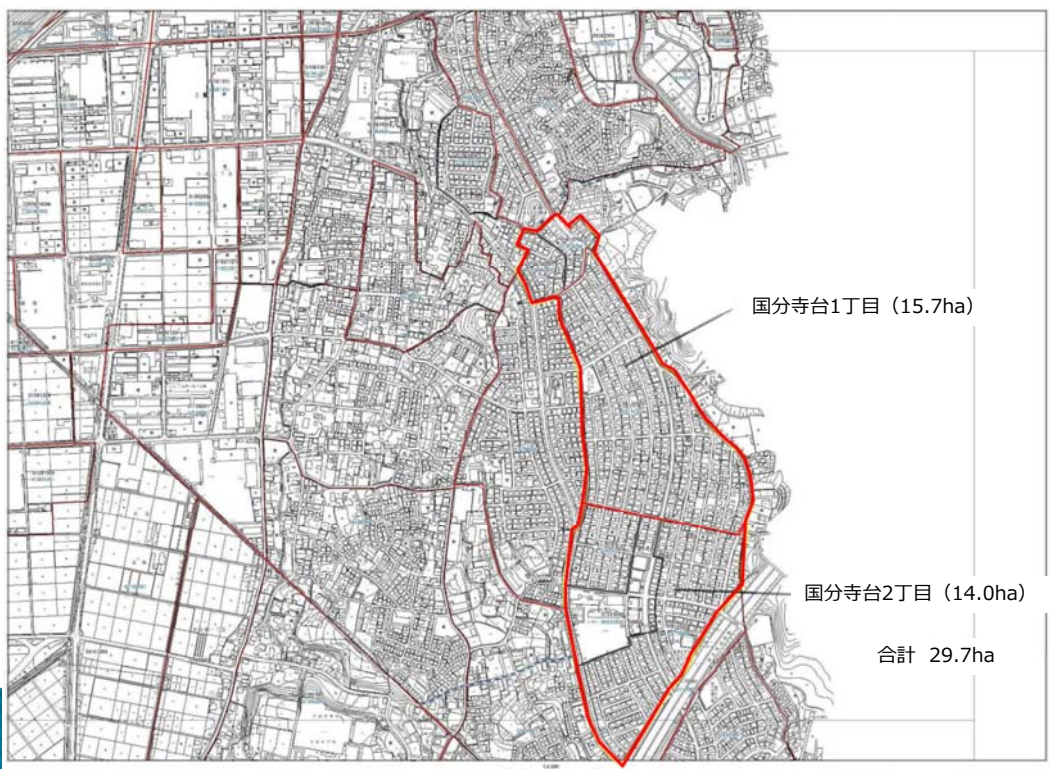
# 平成〇年度 復興まちづくりイメージトレーニング

## 対象地区の概要

平成〇年〇月〇日

### 復興まちづくりイメージトレーニングの対象地区

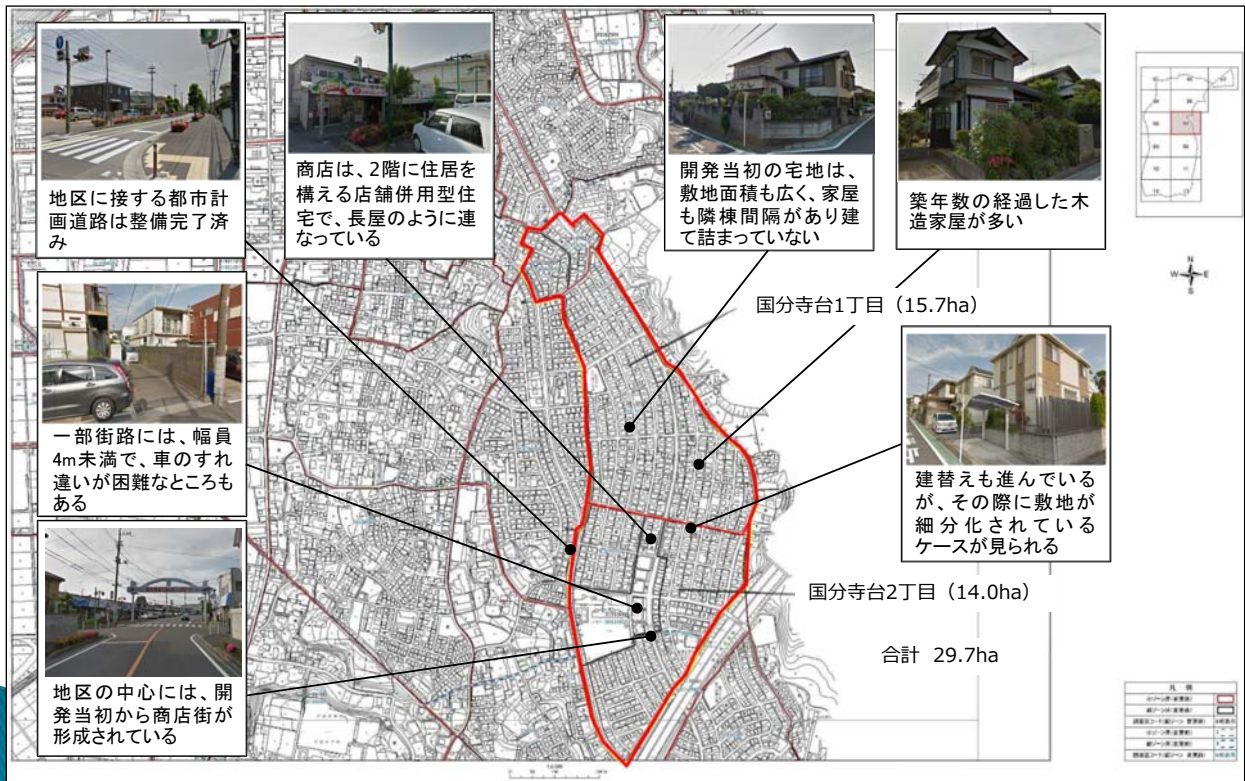
- 国分寺台1丁目（15.7ha）及び国分寺台2丁目（14.0ha）を対象地区とする（計29.7ha）。



凡 例	
道路	道路
河川	河川
緑地	緑地
公園	公園
学校	学校
公共施設	公共施設
商業施設	商業施設
住宅	住宅
その他	その他

# 対象地区の状況

- 対象地区の状況を下図に示す。



3

# 市街地の変遷

- 当該地区は相模鉄道の沿線開発の一環として計画的にまちづくりが実施された。
- 1975年（昭和50年）には現在の形に近い状況でまちができてあがっている。
- 海老名駅までは、路線バスで約10分程度となっている。



1965年(昭和40年)



1975年(昭和50年)



1999年(平成11年)

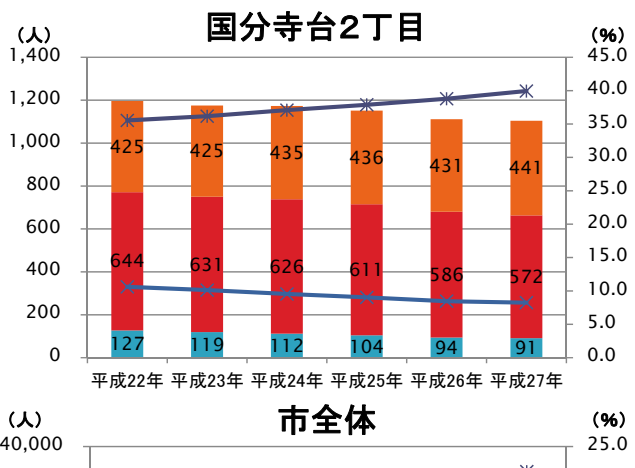
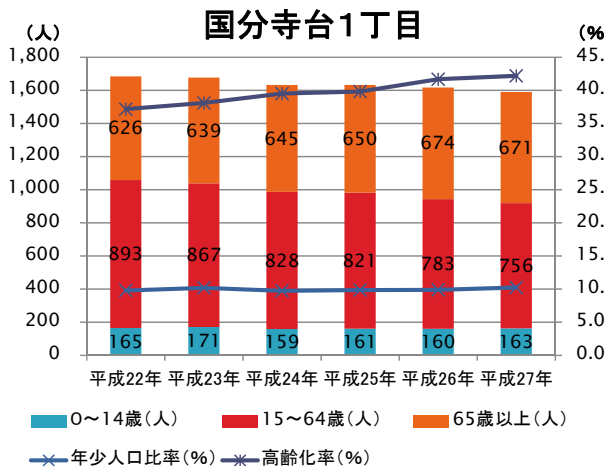


2015年(平成27年)

4

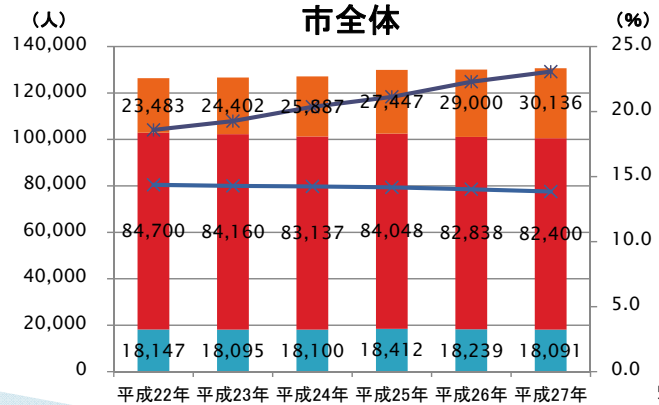
# 人口(3区分)及び高齢化率の変遷

- 1975年(昭和50年)当時に入居した住民が高齢化したことにより、高齢化率は40%超、市平均23%程度を上回っている。



人口総数(人)	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
国分寺台1丁目	1,684	1,677	1,632	1,632	1,617	1,590
国分寺台2丁目	1,196	1,175	1,173	1,151	1,111	1,104
市全体	126,330	126,657	127,124	129,907	130,077	130,627

※平成25年8月から外国人住民を含む



## 参考:面積、人口密度、人口推移

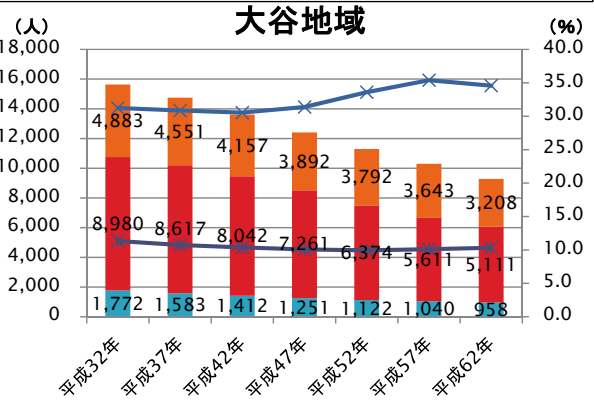
	地区面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(平成27年)(人/km <sup>2</sup> )	地区人口(人)					
			平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
国分寺台1丁目	0.16	9,937.5	1,684	1,677	1,632	1,632	1,617	1,590
国分寺台2丁目	0.17	6,494.1	1,196	1,175	1,173	1,151	1,111	1,104
市全体	26.59	4,912.6	126,330	126,657	127,124	129,907	130,077	130,627

※平成25年8月から外国人住民を含む

# 将来人口推計

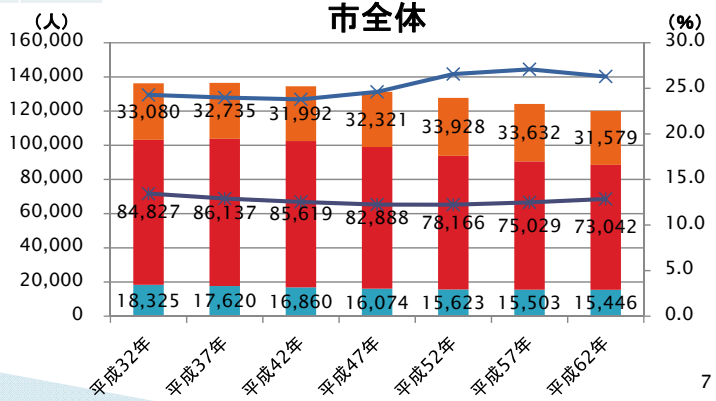
- 海老名市全体の将来人口推計では、平成42年頃から人口が減少に転じると推計されているが、当該地区は既に人口が減少している。

	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	平成57年	平成62年	
大谷地域	高齢化率(%)	31.2	30.9	30.5	31.4	33.6	35.4	34.6
	年少人口比率(%)	11.3	10.7	10.4	10.1	9.9	10.1	10.3
	総数(人)	15,635	14,751	13,611	12,404	11,288	10,294	9,277
市全体	高齢化率(%)	24.3	24.0	23.8	24.6	26.6	27.1	26.3
	年少人口比率(%)	13.5	12.9	12.5	12.2	12.2	12.5	12.9
	総数(人)	136,233	136,492	134,472	131,282	127,717	124,165	120,067



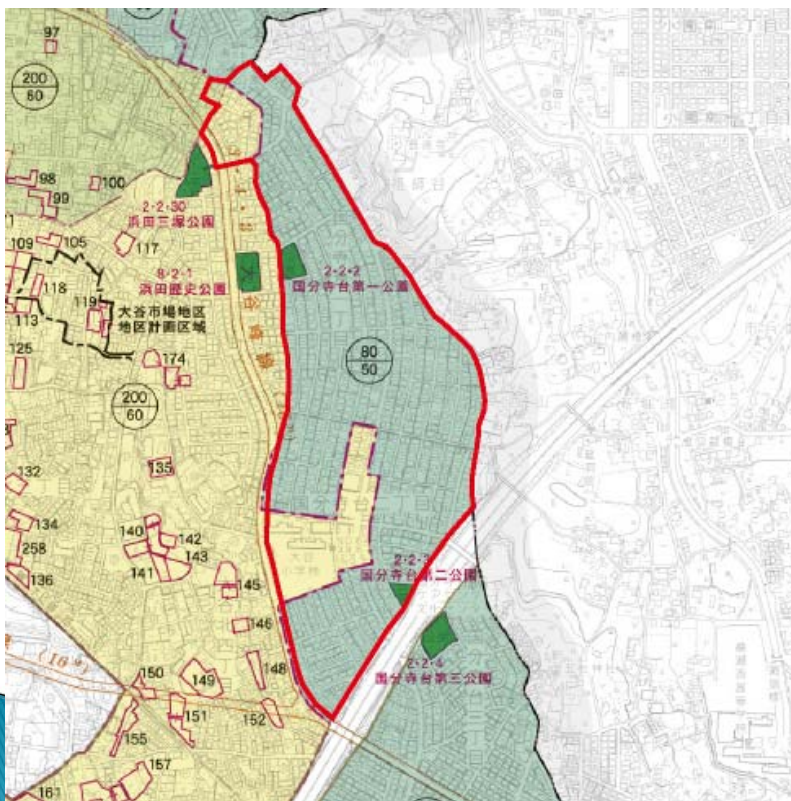
※ 「大谷地域」には、大谷、大谷北、大谷南、浜田町、国分寺台が含まれます。

- 65歳以上(人)
- 15~64歳(人)
- 0~14歳(人)
- 高齢化率(%)
- 年少人口比率(%)



# 都市計画図

- 地区内のほとんどが第一種低層住居専用地域となっている。



用途地域	用途地域区分	用途地域区分	用途地域区分	用途地域区分	用途地域区分	用途地域区分	用途地域区分	用途地域区分
第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用地域
第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域
第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域
第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域
近隣商業地域	近隣商業地域	近隣商業地域	近隣商業地域	近隣商業地域	近隣商業地域	近隣商業地域	近隣商業地域	近隣商業地域
商業地域	商業地域	商業地域	商業地域	商業地域	商業地域	商業地域	商業地域	商業地域
準工業地域	準工業地域	準工業地域	準工業地域	準工業地域	準工業地域	準工業地域	準工業地域	準工業地域
工業地域	工業地域	工業地域	工業地域	工業地域	工業地域	工業地域	工業地域	工業地域
工業専用地域	工業専用地域	工業専用地域	工業専用地域	工業専用地域	工業専用地域	工業専用地域	工業専用地域	工業専用地域

# 土地区画整理区域図

- 国分寺台1丁目・2丁目は旧住宅造成事業により計画的にまちづくりが進められた。
- 旧住宅造成事業により整備された際は、敷地の面積も比較的広がったが、近年、敷地が分割され、建売されるようになっている。
- 参考に浜田町では建築協定により、敷地の分割ができなくなっている。

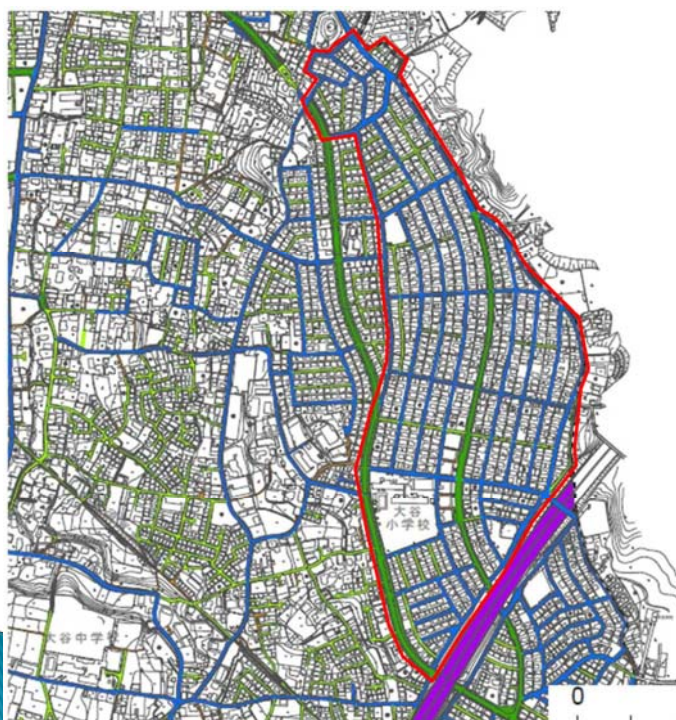


凡 例		
区 分	換地処分 終 了	換 地 未 処 分
旧法12条(個人、共同、組合)		
旧法13条(公共、行政庁)		
新法3条1項(個人、共同)		
新法3条2項(組合)		
新法3条3項(区画整理会社)		
新法3条4項(公共団体)		
新法3条5項(行政庁・国土交通省)		
新法3条の2(都市再生機構)		
新法3条の3(住宅供給公社)		
土地区画整理事業施行区域		
土地区画整理促進区域		
行政界		

注：国分寺台1丁目・2丁目は、旧住造法区域

# 道路幅員

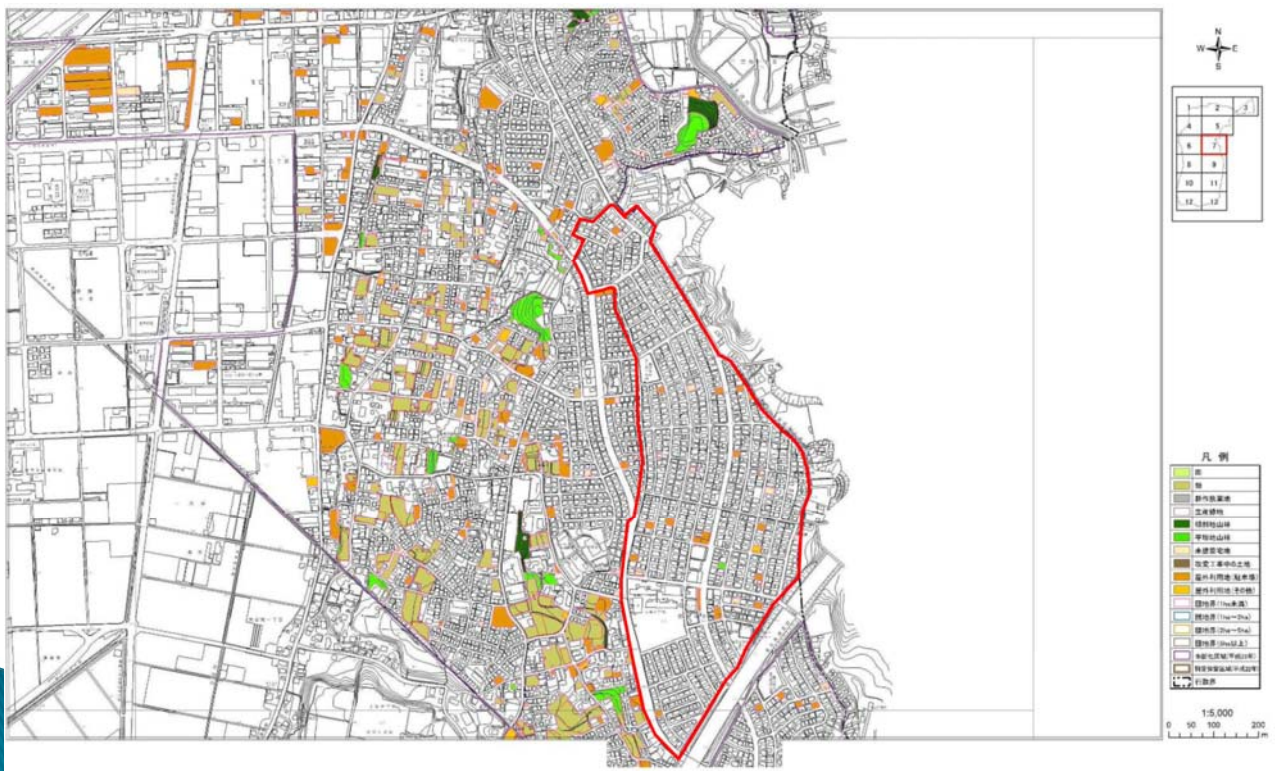
- 地区内は、幅員 4 m以上の道路で構成されている。
- 街路は場所により、自動車のすれ違いができない箇所がある。
- 都市計画道路は全て整備済みとなっている。



凡 例		
自動車専用道		
一 般 道 路	幅員22m以上	
	幅員12m以上～22m未満	
	幅員 6m以上～12m未満	
	幅員 4m以上～ 6m未満	
	幅員 4m未満	
行政界		

# 市街地の農地・未利用地

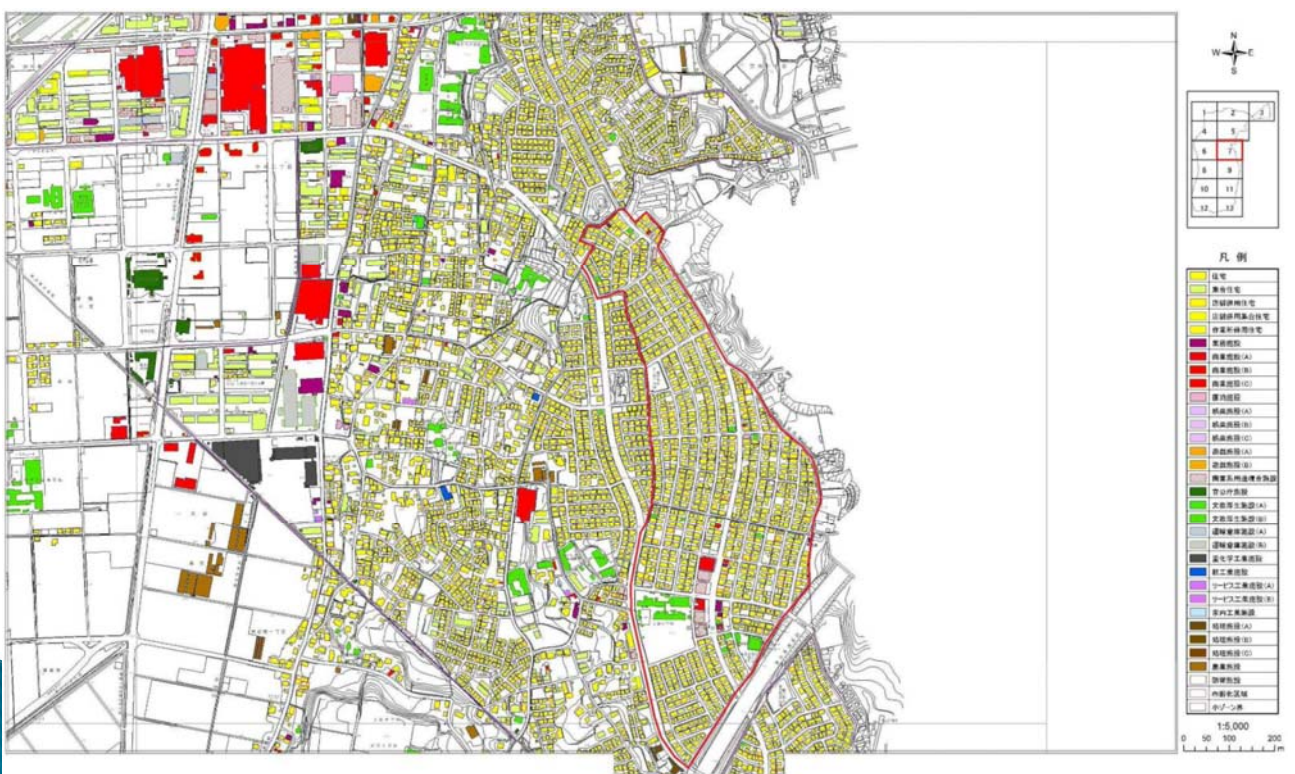
- 地区内には屋外利用地（駐車場）等が点在している。



11

# 建築用途

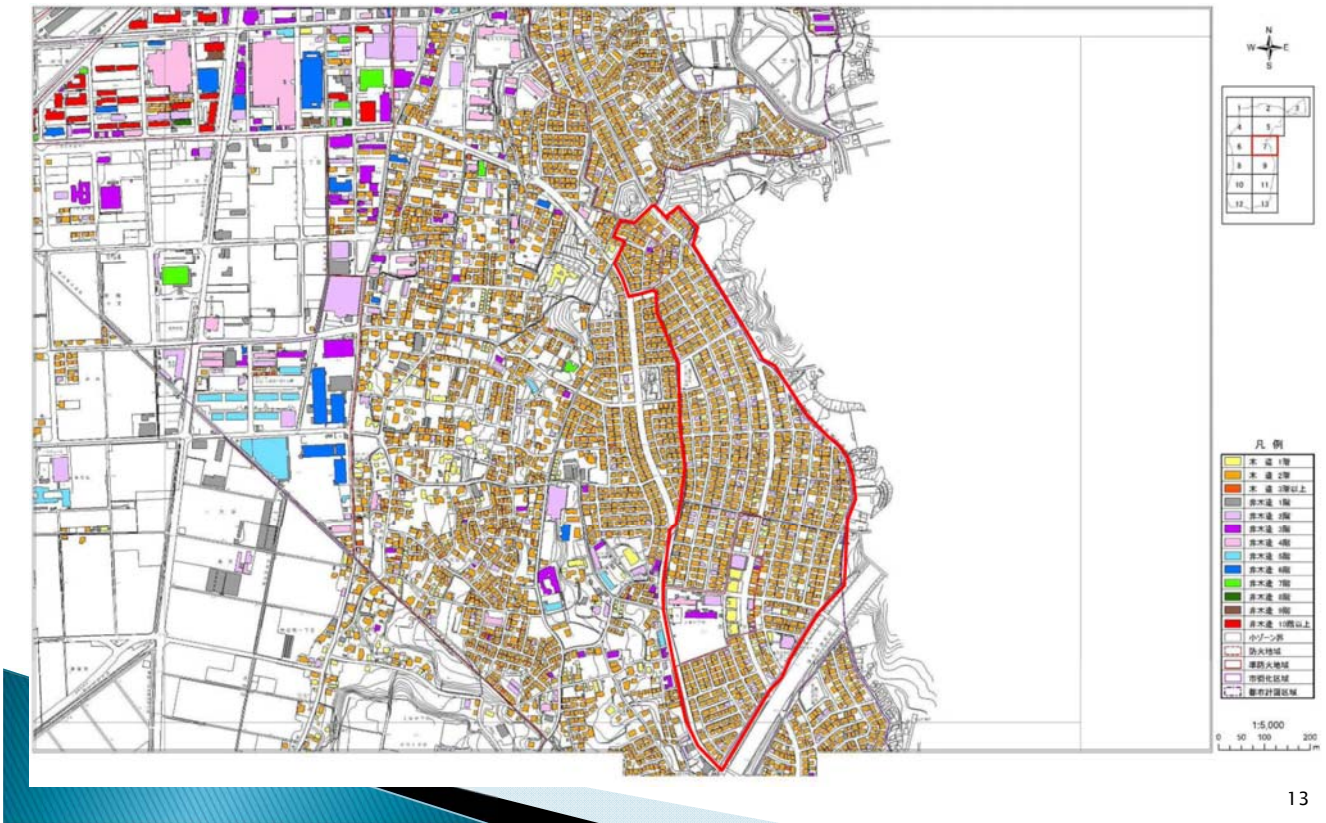
- 建築用途はほとんどが住宅となっている。
- 東名高速道路の北側に一部、商業施設や文教厚生施設等が立地している。



12

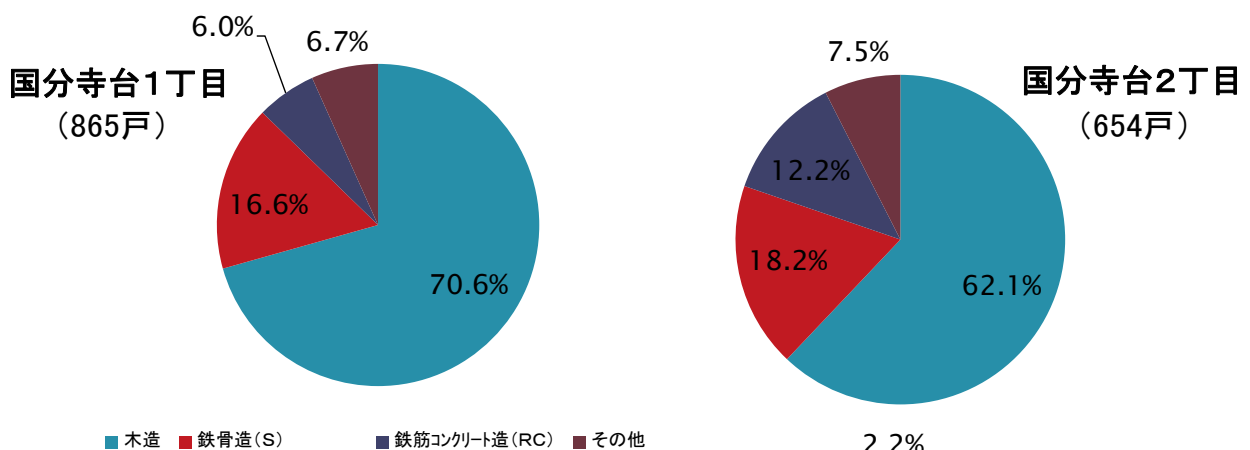
# 建築構造及び建築階数

- 地区内のほとんどが第一種低層住居専用地域であり、木造2階建の建築物が多くなっている。



# 建築構造と戸数

- 木造の建築物が60～70%となっており、市全体の値と比較して高くなっている。



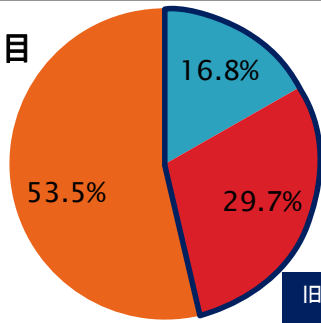
建築構造		木造	鉄骨造	鉄筋コンクリート造	その他
国分寺台 1丁目	戸数	611	144	52	58
	構成比	70.6%	16.6%	6.0%	6.7%
国分寺台 2丁目	戸数	406	119	80	49
	構成比	62.1%	18.2%	12.2%	7.5%
市全体	戸数	30,507	6,940	13,369	1,131
	構成比	58.7%	13.4%	25.7%	2.2%



# 建築年と戸数

- 旧耐震基準建築物（昭和56年以前）が約半数ある。
- 昭和50年に現在の市街地が形成されていたことから類推すると、約半数は建替えられたと想定される。

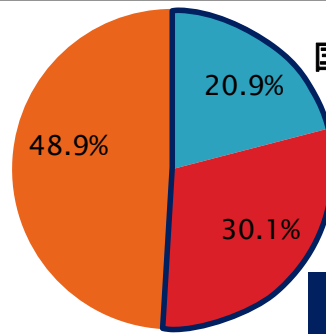
国分寺台1丁目  
(865戸)



旧耐震基準建築物  
46.5%

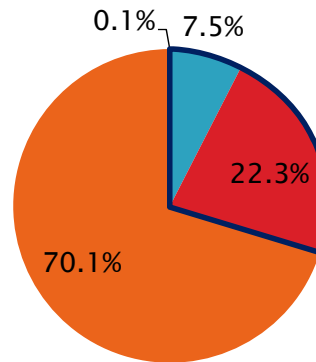
■ 昭和45年以前 ■ 昭和46年から昭和56年 ■ 昭和57年以後 ■ 不明

国分寺台2丁目  
(654戸)



旧耐震基準建築物  
51.1%

建築年		昭和45年以前	昭和46年～昭和56年	昭和57年以後	不明	旧耐震基準建築物
国分寺台1丁目	戸数	145	257	463	0	402
	構成比	16.8%	29.7%	53.5%	0%	46.5%
国分寺台2丁目	戸数	137	197	320	0	334
	構成比	20.9%	30.1%	48.9%	0%	51.1%
市全体	戸数	3,913	11,586	36,414	34	15,499
	構成比	7.5%	22.3%	70.1%	0.1%	29.8%

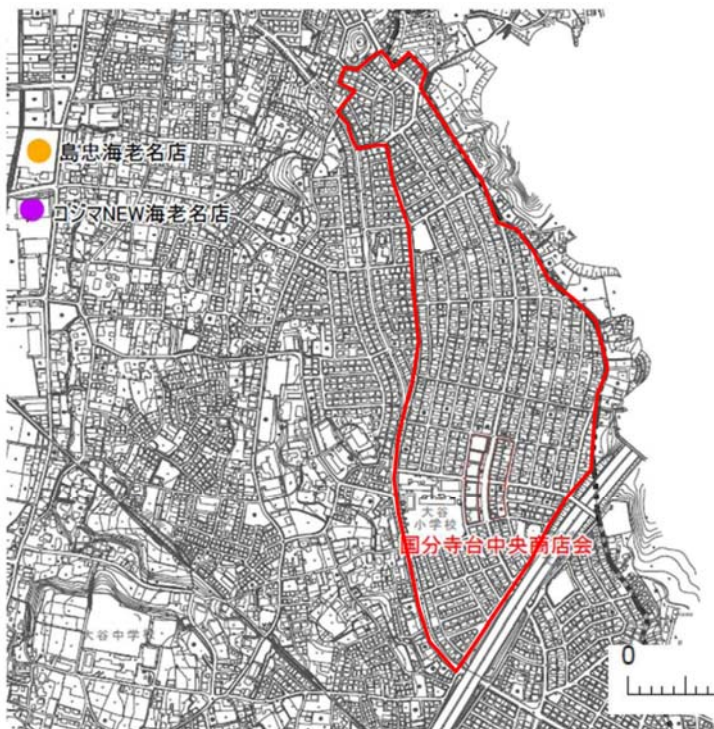


市全体  
(51,947戸)

旧耐震基準建築物  
29.8%

# 商店街・大規模商店等

- 国分寺台中央商店会には相鉄ローゼンがあり、その他の店舗は住商複合の建物となっている。



凡 例	
大規模小売店舗立地法上の店舗	● (Purple dot)
既存店	● (Yellow dot)
商店会	□ (Red outline)
行政界	⎓ (Dashed line)

0 1,000 m

# 都市計画マスタープラン(目標年度:平成37年)

## 全体構想

### 海老名市の将来像と目標

#### 将来都市像

海老名市都市マスタープランでは、海老名市第四次総合計画と同様の将来都市像を描き、平成37年度を目標に「安全」「快適」な都市の実現を目指します。

(将来都市像)

#### 快適に暮らす 魅力あふれるまち 海老名

(都市づくりの基本的な考え方)

#### 都市機能を集積し、暮らしの質を高める都市づくり

(基本目標)

#### 基本目標1

まちの賑わいや元気を  
実感できる都市

#### 基本目標2

安全で安心感のある  
都市

#### 基本目標3

誰もが暮らしやすさを  
実感できる都市

#### 基本目標4

自然や歴史の魅力が  
あふれる都市

#### 海老名市の都市づくり

計画期間(目標年度)

平成37年

目標人口

135,000人



## 地区別構想 ※大谷地区の内、国分寺台関連を抜粋

### 土地利用及び市街地整備の方針

- 地区計画等の活用促進、過度な宅地細分化の防止、緑化等による良好な住環境の維持・保全
- 高齢者等の日常生活に必要な小規模店舗の立地や、多様な世代が暮らせる二世帯住宅等が建築しやすくなるような方策の検討
- 居住環境の維持・向上に向けた建築物の適正な立地の誘導
- 戸建住宅地として計画的に整備された市街地における、良好な居住環境の維持・保全
- 国分寺台中央商店会における、安全な歩行空間の確保や緑化等による、賑わいと暖かみのある商業空間の創出

### 都市施設の整備・改善方針

- 生活道路における、道路の拡幅や一方通行化等による歩行空間の確保

### 自然・都市環境の形成等その他の方針

- 幅員の狭い道路の拡幅や建築物の耐震・不燃化の促進による、市街地の防災性の向上

## 地区の主要課題

- 地区内の人口減少
- 1975年(昭和50年)当時に入居した住民の高齢化  
⇒近年では、地区内の土地・建物を売却し、駅前のマンションへ移住している世帯も増加 など

発災

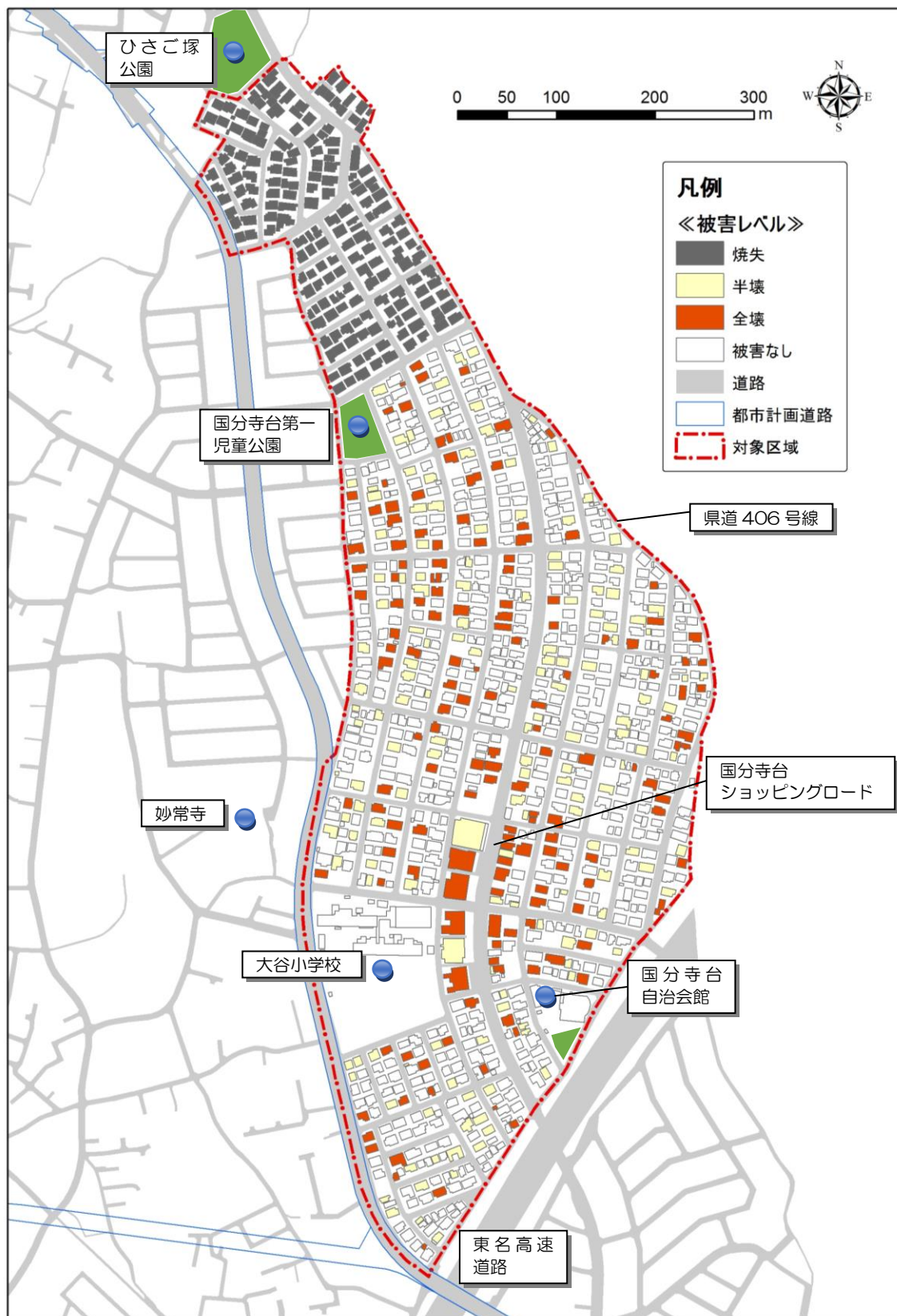
## 被災後の地区の復興方針は？

- 被災後、地区から高齢世帯の流出が加速化
- 空家や空き地の増加
- まちの賑わいや元気の低下 などの問題が顕在化  
⇒「快適に暮らす 魅力あふれるまち」を取り戻すためには？

## 被害想定図

※この被害想定は今回のトレーニング用に作成したものであり、実際の被害を想定したものではありません。

- 大正型関東地震（ほぼ全域で震度6強以上、県央地域で震度7を想定）が発生した場合を想定  
※神奈川県地震被害想定調査（H27.3）を参照
- 地区内の全建物1,091棟の内、焼失191棟（17.5%）、全壊152棟（13.9%）、半壊155棟（14.2%）と想定



## 国分寺台 1・2 丁目地区 世帯属性の設定内容

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
<b>居住地</b>	国分寺台 2 丁目 海老名駅まで約 15 分（バス利用）	国分寺台 2 丁目 海老名駅まで約 15 分（バス利用）	国分寺台 1 丁目 海老名駅まで約 10 分（バス利用）	国分寺台 1 丁目 海老名駅まで約 10 分（バス利用）
<b>職歴</b>	生鮮食品店経営 ＜経営状況＞ 居住時（40 年前）より、夫の両親が店を営業している。今は、夫婦で店を切り盛りしている。	会社員 ※夫の会社の事務所ビル（横浜市）が全壊し、 失職 妻は駅前のスーパーでパート	会社員 ※夫の会社（町田市）は被害なし	無職（元会社員）
<b>世帯構成</b>	夫の父（80 歳）※両親夫婦（同居） 夫の母（75 歳） 夫（50 歳） 妻（48 歳） 長女（23 歳）	夫（55 歳） 妻（50 歳） 長男（21 歳 県内私立大学 3 年生） 長女（18 歳 県内公立高校 3 年生）	夫の父（70 歳）※両親夫婦（同居） 夫の母（65 歳） 夫（35 歳） 妻（33 歳） 長男（5 歳 幼稚園年長）	夫（70 歳） 妻（69 歳）※日常生活において、 車椅子を必要とする
<b>家計状況</b>	・世帯収入：400 万円 ・預貯金：500 万円	・世帯収入：750 万円 ・預貯金：400 万円 ・住宅ローン残高：500 万円 （リフォームをした際のローン残高）	・世帯収入：700 万円 （月 35 万円＋年金 月 8 万円） ・預貯金：500 万円 ・住宅ローン残高：1,000 万円 （二世帯住居で増築した際のローン残高）	・世帯収入：300 万円（月 25 万円） ・預貯金：800 万円
<b>建物被害</b>	店舗兼住宅（木造 2 階） 建築面積 70㎡、床面積 140㎡ 築 40 年 全壊	住宅（木造 2 階） 建築面積 50㎡、床面積 100㎡ 築 25 年（5 年前にリフォーム） 半壊	住宅（木造 2 階） 建築面積 90㎡、床面積 160㎡ 築 40 年（増築部分は築 2 年） 全壊	住宅（木造 2 階） 建築面積 70㎡、床面積 120㎡ 築 37 年 全壊
<b>敷地</b>	・125㎡（約 38 坪（自己所有地）） ・土地評価額：2,125 万円 （㎡単価：17 万円） ・前面道路の幅員：8.0[m] ・第 1 種住居地域	・130㎡（約 39 坪（自己所有地）） ・土地評価額：2,080 万円 （㎡単価：16 万円） ・前面道路の幅員：4.0[m] ・第 1 種低層住居専用地域	・150㎡（約 45 坪（自己所有地）） ・土地評価額：2,550 万円 （㎡単価：17 万円） ・前面道路の幅員：6.0[m] ・第 1 種低層住居専用地域	・220㎡（約 67 坪（自己所有地）） ・土地評価額：3,520 万円 （㎡単価：16 万円） ・前面道路の幅員：4.0[m] ・第 1 種低層住居専用地域
<b>子・親世帯</b>	・長男（24 歳）（東京都在住） 借家・ワンルームマンション（被害なし） 震災により失職	・夫の親世帯（藤沢市在住） 独居・持ち家・戸建て（半壊） ・妻の両親世帯（青森県在住） 持ち家・戸建て（被害なし）	・妻の両親世帯（横浜市在住） 持ち家・戸建て（被害なし）  ※子どもの小学校入学前に夫の親の住宅を増築し二世帯住宅とし、2 年前に市外から転入	・長男夫婦世帯（町田市在住） 持ち家・戸建て（半壊）
<b>居住歴</b>	・居住歴 40 年	・居住歴 25 年	・居住歴 40 年（増築後 2 年）	・居住歴 30 年

## 生活再建シナリオカード

記入者: \_\_\_\_\_

世帯名	
生活再建 シナリオ  (生活再建に至るプロセスを具体的に記述)	
理由  (そのシナリオを想定した理由を記述)	
条件  (そのシナリオが成立するための条件を記述)	

生活再建シナリオカード(記入例)

記入者: 復興 太郎

<p>世帯名</p>	<p>Aさん</p>
<p>生活再建 シナリオ  (生活再建に至るプロセスを具体的に記述)</p>	<p>①避難所生活の後、賃貸住宅を借りる ②仮設商店街などで店を続ける ③被害を受けた建物を取り壊して、店舗兼住宅を再建する計画を立てる ④各種制度やローンを組み資金を確保する ⑤現地で店を再建する</p>
<p>理由  (そのシナリオを想定した理由を記述)</p>	<p>長年商店を経営しており、まちに対する愛着があるため、現地での復興を目指す</p>
<p>条件  (そのシナリオが成立するための条件を記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害援護資金の活用(350万円貸付)</li> <li>・被災者生活再建支援制度の活用(300万円支給)</li> <li>・次女の就業支援</li> </ul>

市街地復興シナリオカード

記入者: \_\_\_\_\_

<p>地区の復興方針 (将来ビジョンを簡潔に)</p>		
<p>市街地復興 シナリオ</p> <p>(目標とする市街地像に至る復興プロセス(=住宅再建を含む)を具体的に記述)</p>	土地利用	
	みどり・景観	
	主要道路※	
	区画街路・細街路	
	公園・オープンスペース	
	公共公益施設	
	戸建住宅(持ち家)	
	集合住宅	
	商業施設	
	その他	
<p>理由 (そのシナリオを想定した理由を記述)</p>		
<p>条件・課題 (そのシナリオが成立するための条件を記述)</p>		

※主要道路:本市の交通体系上、重要となる道路。都市計画道路等

市街地復興シナリオカード(記入例)

記入者: 復興 太郎

<p>タイトル (将来ビジョンを簡潔に)</p>		<p>・多世代が快適に暮らす 魅力あふれるまち 国分寺台</p>
<p>市街地復興 シナリオ</p> <p>(目標とする市街地像に至る復興プロセス(=住宅再建を含む)を具体的に記述)</p>	<p>土地利用</p>	<p>・地区計画等の活用促進による過度な宅地細分化の防止</p>
	<p>みどり・景観</p>	<p>・緑化等による良好な住環境の維持・保全</p>
	<p>主要道路※</p>	<p>・都市計画道路、大谷峰線を延焼遮断帯として整備</p>
	<p>区画街路・細街路</p>	<p>・生活道路における、道路の拡幅や一方通行化等による歩行空間の確保</p>
	<p>公園・オープンスペース</p>	<p>・地区北側の用地を取得し、防災公園を整備</p>
	<p>公共公益施設</p>	<p>・国分寺台文化センター・ケアセンター、自治会館の早期復旧 ・復興まちづくりの拠点として活用</p>
	<p>戸建住宅(持ち家)</p>	<p>・多様な世代が暮らせる二世帯住宅等が建築しやすくなるような方策の検討 ・空家の利活用方策の検討</p>
	<p>集合住宅</p>	<p>・地区北側の用地を取得し、災害公営住宅を建設</p>
	<p>商業施設</p>	<p>・国分寺台中央商店会の再生にあたり、歩道沿道にオープンスペースを設置</p>
	<p>その他</p>	
<p>理由 (そのシナリオを想定した理由を記述)</p>		<p>・地区の人口減少、高齢化率の高さとともに、被災後のまちの賑わいや元気の低下など、顕在化する問題に対処する</p>
<p>条件・課題 (そのシナリオが成立するための条件を記述)</p>		<p>・高齢世帯の生活再建支援方策 ・復興まちづくりの財源確保 ・空いた土地の確保</p>

※主要道路:本市の交通体系上、重要となる道路。都市計画道路等



## 被災者支援に関する制度の概要

## ■支給タイプ

制度名称	支給対象	支給額	備考
災害弔慰金 (市条例)	・市民が災害により死亡した場合	・主たる生計者が死亡した場合：500万円 ・それ以外の者が死亡した場合：250万円	
災害障害見舞金 (市条例)	・災害による負傷・疾病により精神、身体に障害が発生した場合	・主たる生計者に発生した場合：250万円 ・それ以外の者に発生した場合：125万円	
被災者生活再建支援制度 (被災者生活再建支援法)	・住宅が全壊した世帯その他これに準ずる程度の被害を受けたと認められる世帯	以下の2種類の支援金の合計 [住宅の被害程度] ・全壊、解体、長期避難：100万円 ・大規模半壊：50万円 [住宅の再建方法] ・建設・購入：200万円 ・補修：100万円 ・賃借（公営住宅以外）：50万円	※世帯人数が1人の場合、それぞれの支援金は表示金額の3/4の額 ※一旦住宅を賃借した後、自ら居住する住宅を建設・購入（又は補修）する場合は、合計で200万（又は100万）円

## ■貸付タイプ

制度名称	貸付対象	貸付限度額	貸付条件
災害援護資金 (市条例)	自然災害により世帯主の負傷及び家屋等への被害を受けた世帯で、その世帯の前年の年間所得が、次の額以内の世帯に限る。 ・1人：220万円 ・2人：430万円 ・3人：620万円 ・4人：730万円 ・5人以上：730万円に世帯人員が1人増すごとに30万円を加算した額 ※ただし、住居が滅失した場合は1,270万円に緩和	世帯主に負傷があり、療養に要する期間がおおむね1月以上である場合で、かつ、次のいずれかに該当する場合 ア 家財についての被害金額がその家財の価額のおおむね3分の1未満であり、かつ、住居の被害がない場合：150万円 イ 家財の価額のおおむね3分の1以上の被害があり、かつ、住居の被害がない場合：250万円 ウ 住居が半壊した場合：270万円 エ 住居が全壊した場合：350万円 世帯主の負傷が1月未満であるか、負傷がなく、かつ、次のいずれかに該当する場合 ア 家財の価額のおおむね3分の1以上の被害があり、かつ、住居の被害がない場合：150万円 イ 住居が半壊した場合：170万円 ウ 住居が全壊した場合（エの場合を除く）：250万円 エ 住居の全体が滅失若しくは流失し、又はこれと同等と認められる特別の事情があった場合：350万円	・償還期間：10年 ・据置期間：3年 （特別の事情がある場合は5年） ・償還方法：年賦償還又は半年賦償還 ・貸付利率：年3% （措置期間中は無利子）

## 注）被害認定の基準

	全壊	半壊	
		大規模半壊	その他
住家の損壊・焼失・流出した床面積の延べ面積に閉める割合	70%～	50～70%	20～50%
住家の主な構成要素の経済的被害の住家全体に占める割合	50%～	40～50%	20～40%

## 復興まちづくりイメージトレーニングのアンケートについて

本日は大変お忙しい中、「復興まちづくりイメージトレーニング」（以後、復興イメトレ）にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

次年度以降、復興イメトレを実施するにあたり、今回ご参加いただきました皆様のご意見を参考にさせていただきたく考えておりますので、以下のアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

◇時間配分は どう感じ ましたか？	全 体：1.短い 2.ちょうどよい 3.長い 第1部：1.短い 2.ちょうどよい 3.長い 第2部：1.短い 2.ちょうどよい 3.長い 第3部：1.短い 2.ちょうどよい 3.長い	具体的なご意見をご記入ください ( )
◇復興イメ トレの 内容は 理解 でき まし たか？	全 体：1.全てできた 2.かなりできた 3.まあまあできた 4.あまりできなかった 5.できなかった 第1部：1.全てできた 2.かなりできた 3.まあまあできた 4.あまりできなかった 5.できなかった 第2部：1.全てできた 2.かなりできた 3.まあまあできた 4.あまりできなかった 5.できなかった 第3部：1.全てできた 2.かなりできた 3.まあまあできた 4.あまりできなかった 5.できなかった	復興イメトレをより充実させるためのアドバイスやお気づきの改善点などをご記入ください ( )
◇復興イメ トレの 重要 性 に つ い て ど う 感 じ ま し た か？	1.とても重要 2.やや重要 3.どちらとも言えない 4.あまり重要でない 5.まったく重要でない	その理由をご記入ください ( )
◇今後 も 実 施 し た い と 思 い ま す か？	1.とても実施したい 2.やや実施したい 3.どちらとも言えない 4.あまり実施したくない 5.まったく実施したくない	その理由をご記入ください ( )
良かった点、難しかった点、勉強になった点、今後、業務として取り組みたい点などをご記入ください ( )		
復興イメトレの成果を今後、業務や計画策定などに役立てる方法について考えられるものがあればご記入ください ( )		

質問は以上です。

アンケートにご記入いただき、事務局へ提出の後、ご退席ください。本日はご参加、誠にありがとうございました。

生活再建シナリオ

作業用模造紙

グループ名

グループメンバー

世帯属性		本格復興期の状況	生活再建シナリオ	考慮すべき点	生活再建支援策
<b>A 世帯</b> 【生鮮食品店経営】 父(80歳) 母(75歳) 夫(50歳) 妻(48歳) 長女(23歳)					○ すでに利用可能な制度 △ すでにあるが十分とはいえない制度、改善を要する制度 × 現時点では存在しない制度、今後検討すべき制度 * 市街地復興に直接関連する課題
<b>B 世帯</b> 【会社員】 夫(55歳) 妻(50歳) 長男(21歳) 長女(18歳)					

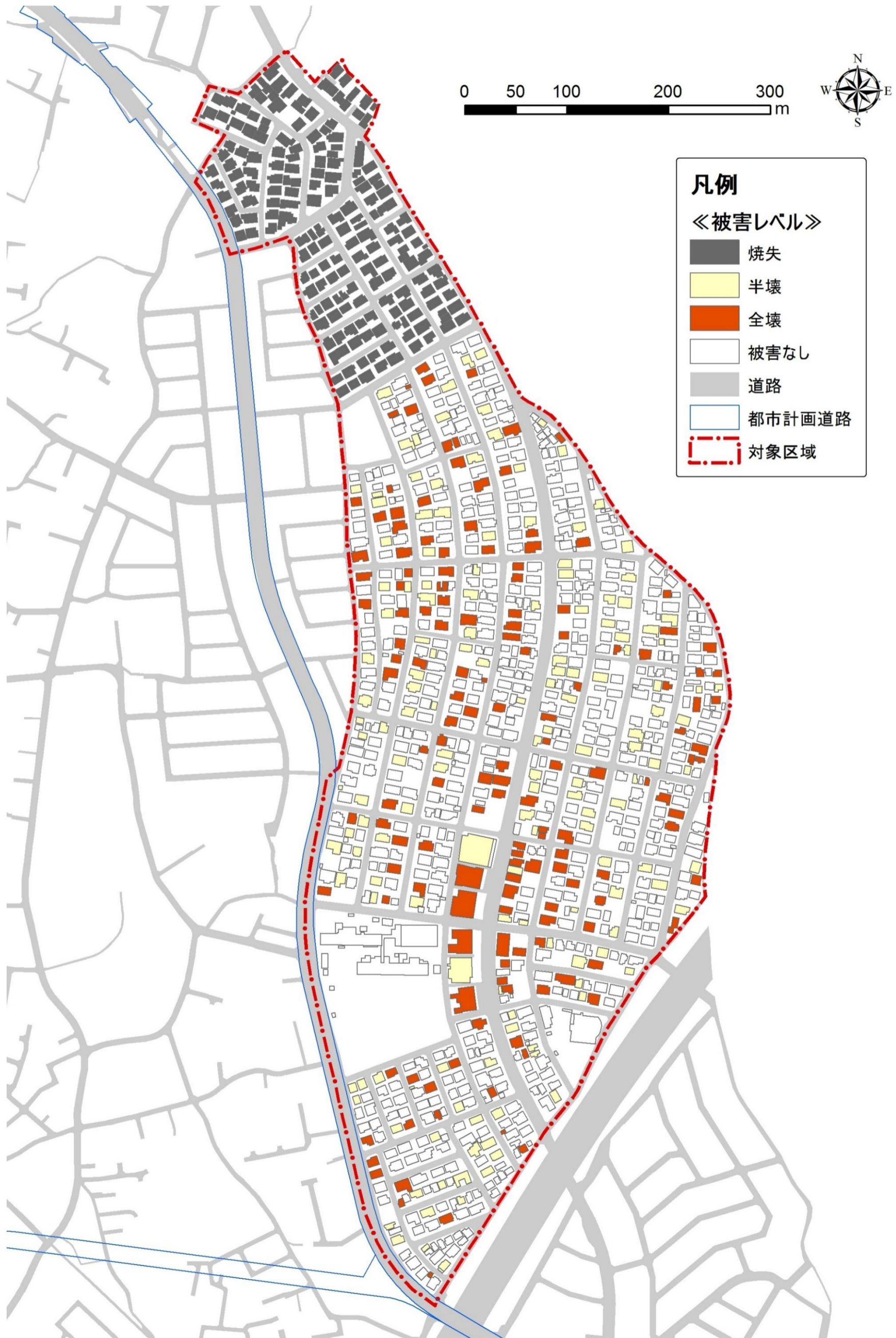
世帯属性		本格復興期の状況	生活再建シナリオ	考慮すべき点	生活再建支援策
<b>C 世帯</b> 【会社員】 父(70歳) 母(65歳) 夫(35歳) 妻(33歳) 長男(5歳)					○ すでに利用可能な制度 △ すでにあるが十分とはいえない制度、改善を要する制度 × 現時点では存在しない制度、今後検討すべき制度 * 市街地復興に直接関連する課題
<b>D 世帯</b> 【無職】 夫(70歳) 妻(69歳)					

# 市街地復興シナリオ 作業用模造紙

グループ名 \_\_\_\_\_

グループメンバー \_\_\_\_\_

※この被害想定は今回のトレーニング用に作成したものであり、実際の被害を想定したものではありません。



		市街地復興シナリオ(第2部)	特に関連する生活再建シナリオ(第1部)	市街地復興の課題(第3部) <small>○ 現時点で十分に対応可能な課題                      △ 現時点で十分に対応できないが、今後検討すれば対応の可能性がある課題                      × 現時点では対応できない、今後検討すべき課題</small>
整備の手法、進め方 (地区全体共通)				
空間要素別シナリオ				